

ディボーション質問表

7日(日) 先週一週間のディボーションを振り返ってみましょう。

1. 心に残った箇所、教えられた箇所に何か共通点はありましたか？
2. その中で一番心に残っていることは何でしょうか？
3. 教えられた事をどのように先週の歩みの中に生かしたでしょうか？ その事を誰かに分かち合ってみませんか。

8日(月) ヨシュア記 22:1~34

どんなに誠意を尽くしても人は疑い深い弱い者

1. すでに安住の地を勝ち取っていたルベン、ガド、マナセ族は全イスラエルの民が土地を所有できるように戦いました。皆のため、神の計画のために犠牲を払った人たちにどのような報いがありましたか(8節)？
→神さまの計画に身をゆだねるとき、大いなる祝福があることを知っているだろうか？ 自分のことばかりでなく、他の人のことをかえりみているだろうか？
2. ヨシュアに「帰っても神様のことを忘れるな」と言われた彼らは何をしましたか(10節)？ それはどのような事件に発展しましたか(12節)？ それはどのような結末に至りましたか(33節)？
→時に、良かれと思ってやったことがとんでもない誤解を生み、関係がぎこちなくなった経験はあるだろうか？ その時私はどのように対処するだろうか？

9日(火) ヨシュア記 23:1~16

良き指導者からの最後の言葉

1. 晩年のヨシュアは民に何と言っていますか？
→神さまを信じ勇敢に生きたヨシュアの言葉は、私に何を語りかけているだろうか？ 今日実践できる示されたことは何だろうか？

10日(水) ヨシュア記 24:1~33

1. 神さまは何世代に渡ってイスラエルを導いておられますか(1~8節)？ この事実からわかる神様の性質は何だろうか？
2. ヨシュアが「本当にお前たちは神さまに仕えるか？」と言った事に、何回民は答えていますか(14~26節)？ 人の誓いに力があるだろうか？ その答えが申命記の歴史で観られます。

11日(木) 士師記 1:1~21

士師記は、ヨシュアが言い残した事に不忠実だったことから困難が起り続ける物語です。そこから人の罪のパターンを見ることができます。1. 良い指導者がいなくなると墮落し、2. 神さまによって罰せられ異国人の奴隷となり、3. 切に救いを求めて、4. 平安がくる。それを7回繰り返します。揚句の果てには、神に頼らず、能力のある人物をたてるのです。つまり王朝時代に入ります。人は墮落する癖があり、目に見える能力のある人に頼る癖があることを知ることができます。人が目に見えない神を信じ生きることは、奇跡であり、神さまの恵みです。

1. ヨシュアの死後、彼らはどのように戦いに挑みましたか(1, 3節)？
→新しくはじめるとき、わたしは誰に相談しているだろうか？ 人をお願いする柔軟性と謙遜さ、勇気と寛大さをもっているだろうか？
2. ユダ族とカレブの結果を比べてください(20~21節)。
→約束を果たす、強さと根気を持っているだろうか？ 今日果たすべき約束はあるだろうか？

12日(金) 士師記 2:22~36

中途半端な勝利の記録

1. ほかの部族の戦いを述べています。どのような結果でしたか(34節)？
→どんなにおいしく、美しく、熟した実全体をだめにしてしまう小さな傷みのような「妥協」という癖はないだろうか？

13日(土) 士師記 2:1~23

信仰教育、歴史教育をしなかった悲しい結末

1. 5節の悔い改めははたして、本物だったのでしょうか？
→感情ばかりの表面的な悔い改めしかできない、霊的墮落ははじまっていないだろうか？
2. 10節でどのような世代が生まれましたか？
→次の世代に仕えることがどれほど大切で祝福であることを実感しているだろうか？